

れき じん

となん歴史民だより vol.67

Morioka tonan history and folklore museum

令和3年9月30日発行

発行 盛岡市都南歴史民俗資料館 盛岡市湯沢 1-1-38 Tel/Fax 019-638-7228



錦絵 皇太后宮様皇后宮様紅葉御遊覧之図

歌川房種 (桜齋房種) <生没年不詳>

明治期 画工 村井静馬 / 版元 浦野浅右衛門

歌川房種は、歌川国貞（三代目豊国）の門人歌川貞房の弟子にあたる。本名を村井静馬といい、安政から明治30年（1897）頃までの作画が確認されている。

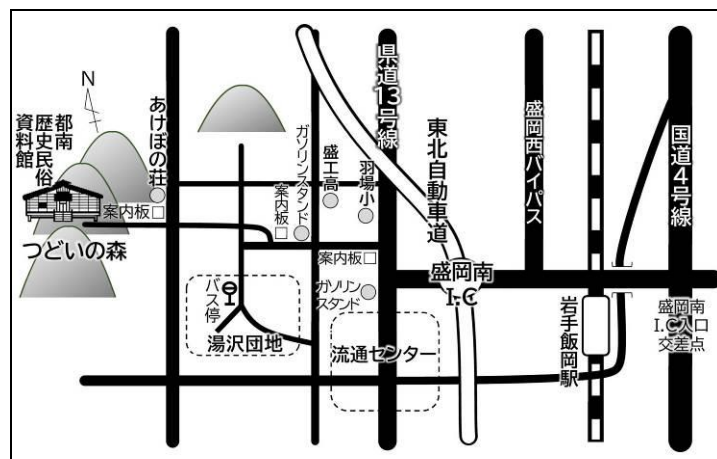
是非ご来館ください。お待ちしております。

— もくじ —

- 収蔵資料展「書物の世界」
終了報告
- 資料は語る (67)
- 盛岡市所在
指定・登録文化財紹介 (67)
- となんの先人⑩

MAP☆ACCESS

★「都南つどいの森」の案内板を目印にお越しください★



○利用案内

開館時間

午前9時から
午後4時まで

入館料

無料

休館日

月曜日
(休日に当たるときは、直近の平日)、
年末年始

収蔵資料展「書物の世界」終了報告

都南歴史民俗資料館では、令和3年6月19日（土）～8月29日（日）の期間、収蔵資料展「書物の世界」を開催いたしました（8月24日以降は新型コロナウイルス感染症対策のため臨時休館）。

その中から版本と写本についてご紹介します。

1 版本・写本とは

版本（刊本）とは、印刷された本を指します。

対して、写本とは手書きされた本や文書を指します。「写」の字の通り他者の著作物を引き写したコピーのことですが、オリジナルでも筆者自らが手書きした場合、写本と呼ばれます。

2 版本と写本の歴史

日本で最初の書物として、615年に筆写された『法華義疏』が挙げられます。聖徳太子自筆とされていますが、否定的な見解もあり、はっきりしません。最初期の書物は、『法華義疏』のように経典を書き写したのや、国を治めるうえで必要な文書や戸籍でした。

お経を写すことは善事と考えられ、功德を積むため天平6年（734）に写経司（のち写経所）という官庁も設けられました。能筆の者を官吏として採用し、教典などを書き写させました。

印刷技術は古くからありましたが、広く用いられるようになったのは近世以降です。世が治まり生活が安定してくると、町衆の間でも文化活動が盛んになりました。読者が増加し印刷の需要も高まったため、整版印刷により出版された書物すなわち版本が一般にも流通するようになりました。

版本が普及したとはいえ、流通する数は決して多くありませんでした。そのため本を借りて書き写すことが盛んに行われました。当館の資料にも数多くの写本が収められています。書物が貴重品だった当時、写本の価値は版本に劣るものではなく、丁寧に装幀され大切に扱われました。

3 写本と版本の例—都南歴史民俗資料館の資料より—

(1) 改算記

『改算記』は万治2年（1659）に山田正重が著した和算書です。書名は、既刊の和算書『塵劫記』などの誤りを正すという意味です。『塵劫記』に並ぶほど流行したため、『改算記大成』『改算塵劫記』など「改算」を付した本が多く出版されました。

当館には『改算記』関連書物が3冊収められています。

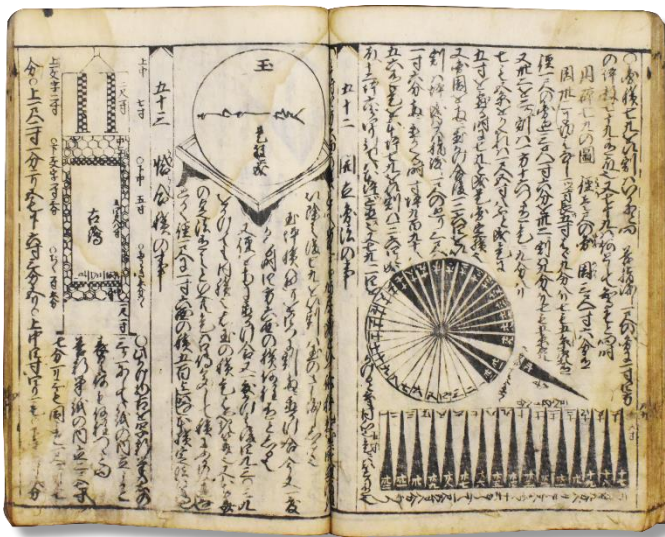
①〈亀井算開平法〉 増益改算記	②（題名なし）	③新改算記
版本（文金堂蔵版）	写本	版本
作者・年代不明	書名は不明だが、 内容から改算記 関連本とみられる	作者・年代不明
旧蔵者：西見前	旧蔵者：永井	旧蔵者：西見前

②の写本は、内容やレイアウトがまるで①の版本『増益改算記』を見て書き写したかのように酷似しています。しかし僅かに差異が見受けられるため、断定することはできません。②の元になった書物が『増益改算記』なのか、改算記を題名に掲げるほかの書物なのか、判断するには検討を重ねる必要があります。

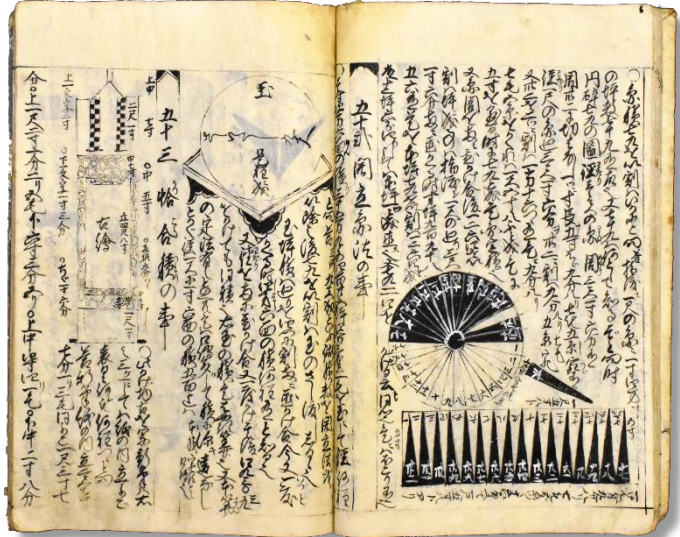


①『増益改算記』 見返し

①『増益改算記』(版本)



②写本



文字だけでなく、図やレイアウト、装飾まで忠実に書き写しています。

①『増益改算記』(版本)



②写本

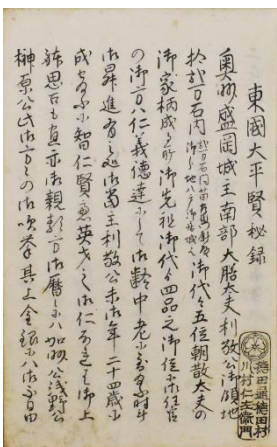


右側のしゃがんでいる人物は、①版本では男性ですが、②写本では女性になっています。

(2) 大平(太平) 東国堅秘録

『大平東国堅秘録』は11代藩主南部利敬のときに盛岡藩が十万石から二十万石に高直しされた経緯を記した書物です。しかし、その内容は史実ではなく創作であると考えられています。

当館には同書の写本が3冊収められています。内容の真偽や是非はともかく、かつての都南地区でよく読まれていたことがうかがえます。

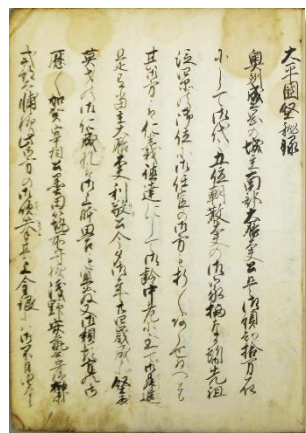


『東国大平賢秘録』写
旧蔵者居住地域は永井だが、「徳田通徳田村 川村仁左衛門」の蔵書印があり、この書物の来歴をうかがわせる。

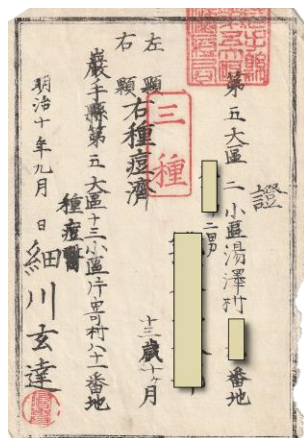
題名・本文ともにそれぞれ少しずつ異なっている。



『大平東国堅秘録』写
旧蔵者居住地域は西見前



『大平国堅秘録』写
旧蔵者居住地域は飯岡新田



【種痘証】

かつて怖れられた感染症のひとつに天然痘（疱瘡）がある。その治療法として確立されたのが「種痘」という予防接種の技法である。

本資料は明治10年（1877）に湯沢村（現盛岡市湯沢）の13歳男児が種痘を受けた証明書である。

種痘医は片寄村（現紫波町）の細川玄達である。玄達は花巻の出身で旧名を小野寺覚蔵といい、片寄村の医師細川玄貞の養子となった。盛岡県学校から内科と外科の療治免許状を交付されたのち、盛岡の平塚重晴から種痘術を修得し、明治8年（1875）に岩手県から種痘開業医の免許状を受けた。

昭和55年（1980）、WHOは天然痘ウイルスの世界根絶宣言を行った。世界中の歴代の医師らが尽力した結果であり、玄達もその1人である。

参考文献：紫波町史編さん委員会『紫波町史』紫波町，1984

県指定有形文化財 工芸品



金小札茶糸緋二枚胴具足付 鎧櫃

所蔵ならびに写真提供：岩手県立博物館

盛岡藩4代藩主南部重信所用の実戦用具足といわれています。文政13年（1830）の『御宝蔵御具足帳』で筆頭にあげられており、当時南部家が所蔵する最古の具足であったと考えられています。

江戸前期の盛岡藩の豊富な産金を物語るように、2,500枚を超える小札すべてに鍍金がされています。緋糸の表面は退色していますが、裏面には本来の茶糸の色が残っています。前立は高さ55cmもある鳥毛がつけられていますが、ほかに勝虫（トンボ）の前立も伝えられています。

参考文献：盛岡市教育委員会『もりおかの文化財』（2008）岩手県立博物館デジタルアーカイブ

とんの先人⑩ 宮崎 求馬 [前]

教育者・神職として貢献した宮崎求馬は、嘉永五年（一八五二）十二月二十七日に宮崎祐道の長男として見前に生まれた。宮崎家の先祖は中世の頃尾去沢鉦山（秋田県）から修験者として移住したといわれており、西見前の北野神社の別当を代々つとめた家系である。

藩校作人館（のち盛岡県学校）や漢学者太田代恒徳の家塾などで学んだのち、明治六年（一八七三）に創立された小学校（現在の盛岡市立見前小学校）の仮教師となった。学制に基づき全国で次々に小学校が設立された当時、校舎を新築する費用は多くが既存の建物に間借りし開校した。見前では求馬の自宅が校舎として借り上げられたため、「宮崎学校」と呼ばれ親しまれた。

その後大正三年（一九一四）まで教師、訓導として約四十年教育に力を尽くした。勤続満四十周年を迎えた年に教え子達が石柱の校門※を建立して謝恩の意を表したことから、敬慕されていたことがわかる。

退職の翌年、大正天皇即位の大典を記念し、求馬は私設図書館「宮崎文庫」を公開した。認可を得て自宅の一角を開放したもので、膨大な蔵書を一般の閲覧に供した。求馬の蔵書数は後の研究で八千点以上にのぼると推測されており、中には絶版となったもの、中世文書など歴史上貴重な文献も多く含まれていた。

※このとき校舎は現在地に新築移転しており、門柱は同校に現存する。

参考文献…

都南村誌編集委員会『都南村誌』都南村，一九七四

岩手県姓氏歴史人物大辞典編集委員会『岩手県姓氏歴史人物大辞典』

吉田長一郎『宮崎求馬―見前地区の学校教育の先駆者―』（社）岩手県青少年育成

見前小学校創立一〇〇周年記念事業協賛会『見前小学校創立一〇〇周年記念誌』一九七三

盛岡市都南歴史民俗資料館平成二十八年年度企画展「都南の先人 宮崎求馬」

解説文及び調査資料